少人数のゼミ形式による音楽教育

教授 浅井 洋子 (ピアノ)

准教授 森 直紀 (ピアノ)

I. 研究テーマの概要

本研究では昨年度より音楽大学における「少人数のゼミ形式による多面的・横断的なカリキュラムとその運用法」について考察してきたが、その主目的は本学短期大学の「ピアノコース」の学生を対象に、各学生の能力を最大限に引き出し得る有機的かつ効率的な教育システムを検証することであり、その成果として来年度より「少人数によるゼミ形式」形態による科目『ピアノ演奏研究』①②を新設する運びとなった。

この科目における特長を以下にまとめる。

(1) 講義

ピアノを演奏するために必要な様々な事柄を「講義」というスタイルの中で、客観的・系統的に学んでいくことが普遍的な音楽観を育成するうえで必要である。しかし単に座学として行なうのではなく、そこに「学生自身による実践」を介在させることにより、常に「研究・発表・点検・改善」の学習サイクルを身につけさせていく。

(2) 演習

「グループプレッスン」を通して各自が授業内で課題曲の研究成果を発表することにより、集団の中で自己の演奏や意見を発表できる力を身に付け、また頻繁に他者の演奏を聴き、比較し、批評することにより、演奏を客観的に捉え得る能力を養っていく。

(3) 演奏会

短大ピアノコースでは「音楽はステージ (実践) から」という教育方針にのっとり、長年にわたり『秋のコンサート』という特色あるプログラムを実施してきたが、『ピアノ演奏研究』におけるアンサンブル指導の最終目標として実際の「公演」を位置付けることにより、本科目での履修内容を有機的に統合し、学生の「やる気」に繋げる。

(4) 運営

『秋のコンサート』の企画、準備、当日の運用までを全員で組織的に取り組むことにより、「マネジメント力」や「協調性」を育む。同時に一つのテーマに対して学生自身で問題点を発見し解決策を見出し、実行に移せる力を身に付けさせる。さらに運営活動を通して学生の「充実感」や、学生時代の大切な「思い出」獲得に結びつける。

以上のように『ピアノ演奏研究』は「講義」「演習」「公演」「運営」を柱とした横断的・双方向的な授業内容により、多様な学生の能力に対応しうるきめ細やかな教育を目指す新カリキュラムである。次にその教育目標をまとめる。

Ⅱ. 『ピアノ演奏研究』の教育目標

(1) 専門教育

音楽大学でピアノを学んだものにふさわしい「学士力」—基礎的知識と技術—の獲得、さらには将来ピアノの演奏家や指導者を志す者にとっても有用な情報提供を目指す。

1) 演奏力

- ①演奏技術上の基礎知識と実践
- ②音楽様式および演奏スタイルの差異に対する理解
- ③音楽的表現に関わる奏法上の理解
- ④アンサンブル能力の向上
- ⑤授業および演奏会における演奏の実践

2) 観賞力

- ①ピアノ音楽史の理解
- ②ピアノ演奏スタイルの変遷
- ③他者の演奏に対する評価

(2) キャリア教育

専攻実技にかかわることなく、大学卒業生として社会で求められる「人間力」の獲得と強化を目指す。

1) 文章力

- ① 自己分析・自己表現（レポート執筆）
- ② 評論・感想

2) プレゼンテーション力

- ① 口頭発表（レポート発表）
- ② 意見発表

3) コミュニケーション力

- ① 討論・意見交換
- ② アンサンブルによる他者との交流

4) マネージメント力

- ① 『秋のコンサート』の学生による企画・運営
- ② 小グループによる研究と発表

次章においては『ピアノ演奏研究①②』の「シラバス」および『ピアノ演奏研究①』の「指導計画」を記す。なお『ピアノ演奏研究②』の指導計画については紙面の関係で割愛する。

Ⅲ. 『ピアノ演奏研究』のシラバス

(1) 『ピアノ演奏研究①』

1) 目標と概要

この授業ではピアノソロ及びアンサンブル作品の演奏と研究を通してピアノ演奏上不可欠な、ディナーミクス、フレージング、アーティキュレーションなどに対する理解を深め、演奏技術並びに音楽性の向上を図る。また、音楽表現における多様性及び音楽上での他者との協調についても学び、その研究成果を「秋のコンサート」での連弾演奏に活かすことを目標とする。同時に「秋のコンサート」の企画・運営に学生が組織的に取り組むことを通して、マネジメント力を育成していく。さらに年間を通じて『音楽を語る』というテーマでのレポート執筆と発表を行うことにより、演奏における自己表現力を高め、同時に文章力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力を向上させながら、卒業後の社会活動に必要なスキルを身に付けていくことを目指す。後期末定期試験では、授業に関する内容の筆記試験を課す。

2) 授業展開

前期	
1	授業内容のオリエンテーション
2	プレゼンテーションの手法について
3	〃
4	『音楽を語る』①「自分が音楽を志した理由」
5	〃
6	古典派ピアノ作品研究発表
7	〃
8	〃
9	〃
10	ピアノアンサンブル（連弾・2台ピアノ）の歴史と演奏法
11	古典派ピアノ連弾作品の演奏分析研究
12	〃
13	〃
14	〃
15	「秋のコンサート」運営方法の検討及び曲目決定
後期	
1	「秋のコンサート」で演奏する連弾曲についての研究
2	〃
3	〃
4	〃
5	「秋のコンサート」出演
6	『音楽を語る』②「秋のコンサートに出演して」
7	『音楽を語る』③「興味のある事柄について」
8	〃
9	〃
10	バロック作品研究発表
11	〃
12	〃
13	〃
14	演奏表現の多様性—CD・DVDによる比較研究
15	〃

3) 履修上の注意

授業内での意見発表や「秋のコンサート」の企画・運営については、積極的に取り組むこと。

4) 授業外学習の指示

事前に指定された曲については各自十分予習した上で授業に望むこと。

『音楽を語る』に関してはパソコンを使用して事前にレポートを執筆すること。

5) 教科書・参考書

特定の教科書は用いない。取り上げる曲については授業を進めながら指定していく。

(2) 『ピアノ演奏研究②』

1) 目標と概要

この授業では1年次に引き続き、ピアノソロ及びアンサンブル作品の演奏と研究を通してピアノ音楽における重要な作曲家や多様なレパートリーに対する理解を深め、演奏技術並びに音楽的知識を高めていく。また、音楽表現における多様性及び音楽上での他者との協調についても研究を深め、「秋のコンサート」では2台ピアノの演奏に取り組み、同時に1年次の企画・運営の経験を踏まえてマネジメント力と協調性の向上を目指す。また授業内での演奏発表を通して自己表現力を高めつつ、『音楽を語る』というテーマでのレポート執筆と発表により、文章力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力をさらに強化し、卒業後の社会活動に必要なキャリアを養成していく。後期末定期試験では、授業に関する内容の筆記試験を課す。

2) 授業展開

前期	
1	授業内容のオリエンテーション
2	『音楽を語る』①「作曲家について」
3	〃
4	〃
5	ロマン派ピアノ作品研究発表
6	〃
7	〃
8	〃
9	歌曲・器楽の伴奏法
10	〃
11	2台ピアノ作品の演奏分析研究
12	〃
13	〃
14	〃
15	「秋のコンサート」運営方法の検討及び曲目決定
後期	
1	「秋のコンサート」で演奏する2台ピアノ曲についての研究
2	〃
3	〃
4	〃
5	「秋のコンサート」出演
6	『音楽を語る』②「秋のコンサートに出演して」
7	近現代ピアノ作品研究発表
8	〃
9	〃
10	
11	『音楽を語る』③「好きなピアニスについて」
12	〃
13	〃
14	演奏者の個性—CD・DVDによる比較研究
15	〃

3) 履修上の注意

授業内での意見発表や「秋のコンサート」の企画・運営については、積極的に取り組むこと。

4) 授業外学習の指示

事前に指定された曲については各自十分予習した上で授業に望むこと。

『音楽を語る』に関してはパソコンを使用して事前にレポートを執筆すること。

5) 教科書・参考書

特定の教科書は用いない。取り上げる曲については授業を進めながら指定していく。

IV. 『ピアノ演奏研究①』の指導計画

前期 第1回	
シラバス	授業内容のオリエンテーション
授業の目的 1. シラバスに基づく年間授業計画を説明し、主にアンサンブルの研究を通してピアノ演奏解釈について学びながらピアノ演奏力の向上を目指すものであることを理解させる。 2. 『音楽を語る』『作品研究』におけるレポート執筆とプレゼンテーションの意義を理解させる。 3. 「秋のコンサート」での連弾演奏と、運営に携わることの意義について理解させる。 到達度目標 1. 「秋のコンサート」に向けてのモチベーションを高める。 2. ピアノ音楽史における「古典派」の意義について認識し、代表的作曲家について理解を深める。 3. 『音楽と音楽家』について考察し、シューマンの評論活動についての理解を深める。	
使用教材 1. シラバスコピー配付 2. 『音楽を語る』『作品研究』レポート執筆要領(※資料1)配付 3. 『音楽と音楽家』(シューマン著:吉田秀和訳)よりの抜粋資料配付	
授業展開 1. 一人ずつ自己紹介を行う。 2. シラバスに基づき各回の授業の内容の概要を説明する。 3. 『音楽を語る』『作品研究』レポート執筆要領に基づき、第3. 4回『音楽を語る』①のテーマ「自分が音楽を志した理由」について説明する。文字数、パソコン使用等についても指導する。 4. 第5. 6. 7回「古典派のピアノ作品研究発表」について以下の予備知識を与える。 ①各自過去に演奏したことのある「古典派のピアノ作品」(ソナタの場合は全楽章でなくてもよい)について、創作の背景、エピソードについてレポートにまとめる。 ②楽曲の形式、構造について分析し、部分的な演奏を交えながら各自紹介する。 5. 次回の授業について以下の説明を行う。自宅で配付資料『音楽と音楽家～音楽座右銘』(シューマン著:吉田秀和訳)全文を読んだのち、各自が最も感動した文章を全員の前で朗読し、その理由と感想を発表する。	
時間配分・注意事項 1. 10分。・出身地・現住所・主科実技担当教員名を述べさせる。 2. 5分。 3. 5分。・自分の考えを的確にまとめることを目的とする。早めに取りかからせる。 ・パソコンがない場合は手書きでも構わない。パソコンの場合はデータを蓄積させる。 4. 30分。・古典派の作曲家を挙げさせる。 ・どのような古典派の作品を演奏したことがあるか、一人ひとりに答えさせる。 ・どの作曲家が好きか。またどのような作品を知っているか、演奏してみたいか等についてディスカッションする。 5. 25分。・シューマンについての説明(ロマン派・文筆活動等) ・『音楽と音楽家』の内容についての説明。 ・吉田秀和氏についても簡潔に紹介。 ・恥ずかしがらずに、はっきりとわかりやすく話す。 ・文章の内容を理解し、心をこめて伝えることを心がける。 6. 5分。・自分の意見を発表できるように、事前に考えをまとめて発表の練習をしておく。	

前期 第2・3回	
シラバス	プレゼンテーション
授業の目的 1. 音楽に関する文章を読み、それについて自分の考えをまとめる。 2. 他者の理解を得られるように口頭で発表する。 3. 他者の考えを理解し、それについて意見や質問を述べる。	

到達度目標
1. 『音楽と音楽家』の内容について考察し、シューマンの評論活動について理解を深める。 2. シューマンの音楽について理解を深め、ピアノ音楽史における意義について認識する。
使用教材
1. 『音楽と音楽家～音楽座右銘』(シューマン著:吉田秀和訳)よりの抜粋配付資料 2. シューマン:子供の情景 作品15 (CD)
授業展開
1. 『音楽と音楽家～音楽座右銘』(シューマン著:吉田秀和訳) ①一文を例にあげて、全員で朗読の練習を行う。 ②一人ずつ朗読させる。その際、発音、抑揚、声量等について必要に応じて注意を与える。 ③全員で意見交換を行う。 2. シューマン:子供の情景 作品15をCDで観賞する。 3. 第4・5回授業『音楽を語る①』のレポート作成についての説明を行う。
時間配分・注意事項
1. 60分。・各回半数ずつ発表させる。 ・恥ずかしがらずに、はっきりとわかりやすく話す。 ・文章の内容を理解し、心をこめて伝えることを心がける。 ・他の学生の発表に対して、自分の感想や意見を述べさせる。 ・教育者としてのシューマンの業績を知らせる。 2. 10分。・前半、後半に分けて2回にわたり観賞する。 3. 5分。・第4回の授業までに『自分が音楽を志した理由』をレポートにまとめること。 授業内で一人ずつ発表する。

前期 第4・5回	
シラバス	『音楽を語る』①「自分が音楽を志した理由」
授業の目的	
1. 「自分が音楽を志した理由」を自己分析したうえでレポートにまとめる。 2. 他者の理解を得られるように口頭で発表する。 3. 他者の発表に対し意見や質問を述べる。	
到達度目標	
1. 音楽大学で学ぶにあたり、自己の音楽を志した動機を再認識する。 2. 自分以外の音楽的な経験を知り、視野を広める。 3. レポート作成により、文章力を高める。 4. レポートを基にして、自分の言葉で考えを述べる。	
使用教材	
なし	
授業展開	
1. レポート発表 ①一人ずつ作成したレポートを基にプレゼンテーションを行う。 ②全員で意見交換を行う。 2. 第6・7・8・9回授業「古典派ピアノ作品研究」についての説明を行う。	
時間配分・注意事項	
1. 75分。・各回半数ずつ発表させる。 ・恥ずかしがらずに、はっきりとわかりやすく話す。 ・ただレポートを読み上げるのではなく、聴衆の反応を見て言葉遣いを考えて話す。 ・他の学生の発表に対して、自分の感想や意見を述べさせる。 2. 5分。・第6・7・8・9回授業「古典派ピアノ作品研究」について発表方法の説明を行う。 ・全員を4分割し、発表日を決定し準備を促す。	

前期 第6・7・8・9回	
シラバス	古典派ピアノ作品研究発表

授業の目的   1. 古典派のピアノ作品より各自1曲取り上げ、エピソード・背景について研究する。   2. 楽曲の一部を抜粋して分析を行い、実際に人前で演奏してみる。   3. 他者の発表に対し意見や質問を述べる。
到達度目標   1. ウイーン古典派時代の背景について認識を深める。   2. ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンそれぞれの特徴について理解を深める。   3. 古典派時代の演奏様式についての知識を高める。   4. 作品研究と演奏発表を通して自己の解釈を表現することを学ぶ。
使用教材   各自分析研究した曲の楽譜を持参する。
授業展開   1. 一人ずつ作品研究発表を行う。   ①楽曲のエピソード・背景についてプレゼンテーションを行う。   ②楽曲の一部を楽譜を見ながら分析し、演奏する。   ③全員で意見交換を行う。   2. 第11・12・13・14回授業「古典派連弾作品の演奏分析研究」についての説明を行う。
時間配分・注意事項   1. 75分。・各回5名(総数の4分の1)ずつ発表させる。   ・1人15分程度にまとめ、時間配分に注意して要領よくわかりやすく発表する。   ・楽曲分析では、必ず演奏を交えて具体的に説明する。   ・他の学生の発表に対して、自分の感想や意見を述べさせる。   2. 5分。第11・12・13・14回授業「古典派連弾作品の演奏分析研究」について事前に説明する。   ・二人ずつペアを組ませる。   ・課題曲を指定し、演奏パートを打ち合わせ、授業までに練習してくるよう指導する。   ・各ペアが演奏する授業日を事前に決定し準備させておく。

前期 第10回	
シラバス	ピアノアンサンブル(連弾・2台ピアノ)の歴史と演奏法
授業の目的 1. ピアノアンサンブル作品の歴史と意義について研究する。 2. ピアノアンサンブル演奏における注意点について研究する。 3. DVDにより実際の連弾・2台ピアノの演奏を鑑賞する。	
到達度目標 1. ピアノアンサンブルの歴史を理解し、音楽史における意義について理解を深める。 2. ピアノアンサンブルにおける重要な作曲家、代表的作品について知識を深め、選曲に役立てる。 3. ピアノ連弾演奏における注意点について知識を得、演奏に反映させる。	
使用教材 連弾・2台ピアノ鑑賞のためのCD, DVD	
授業展開 1. ピアノアンサンブルの歴史を概観する。 ①連弾・2台ピアノ演奏スタイルの発生と発展過程を説明する。 ②このジャンルにおける重要な作曲家と代表的作品について解説する。 2. CD, DVDを使用して代表的演奏を鑑賞した後、感想を述べさせる。 3. ピアノ連弾演奏における注意点を挙げ、理解させる。	
時間配分・注意事項 1. 30分。・古典派以後のピアノの発展と普及、音楽の市民階級への波及等を理解させる。 ・ロマン派以後のオーケストラの代用からピアノデュオオリジナル作品の需要と発展について理解させる。 ・モーツァルト・ベートーヴェン・シューベルト・リスト・ブラームス・モシコフスキー・ドヴォルザーク・グリーグ・フォーレ・ドビュッシー・ラヴェル・ミヨー・プーランク・アレンスキー・ラフマニノフ等の作品を紹介する。	

2. 30分・CD, DVDにより連弾と2台ピアノの演奏を鑑賞する。   ・鑑賞後に曲及び演奏についての感想を一人ずつ発表させる。   3. 10分 ・ピアノ連弾演奏における以下の注意点を具体的に説明する。   ・記譜上の音域の偏りと音域分担によるポジションの違い。   ・共演者の手によるポジションの干渉と手の交差等の特殊性。   ・両者の音量のバランスと音色のコントラスト。   ・拍とリズムの一致及びアーティキュレーションの統一。   ・音楽的解釈に対する意志の疎通と共有。

前期 第11・12・13・14回	
シラバス	古典派ピアノ連弾作品の演奏分析研究
授業の目的	
1. 課題となった連弾曲を事前に各自で研究し、ペアごとに合わせ練習を行ったうえでまとめる。 2. 授業内で演奏した後、演奏方法について公開レッスン形式にて詳細に研究する。 3. 他のペアの演奏に対し感想や意見を述べる。	
到達度目標	
1. 古典派時代の演奏様式についての理解を深める。 2. 連弾演奏における注意点を実践的に確認する。 3. 人前での演奏を通してアンサンブルの楽しさと難しさを体験する。 4. 複数の演奏発表の鑑賞を通して演奏解釈表現の多様性について認識する。	
使用教材	
ベートーヴェン：4手のためのピアノソナタ ニ長調 作品6（ヘンレ版）全(1・2)楽章	
授業展開	
1. 『ベートーヴェン：ピアノソナタ ニ長調 作品6』作曲の背景について紹介する。 2. 公開レッスン形式により1組ずつ演奏発表を行い、教員が指導する。 ①1・2楽章またはそのどちらかをペア毎に演奏させる。1・2楽章の場合はパートをチェンジさせる。 ②2回の授業でいったん全組終了し、次の2回の授業で再度繰り返し行い内容を深める。 ③他者の演奏に対し各自感想を述べ、全員で意見交換を行う。	
時間配分・注意事項	
1. 5分・創作年、創作動機、献呈等。 2. 75分 ・1組約15分の演奏とレッスンを行う。 ・連弾演奏における注意点について具体的に指導する。 ・全員に演奏後及び鑑賞後の感想や意見を述べさせる。	

前期 第15回	
シラバス	「秋のコンサート」運営方法の検討及び曲目決定
授業の目的	
1. 「秋のコンサート」開催の意義について理解する。 2. 公開演奏の舞台に立つというプロ意識を持つ。 3. 演奏会の企画・運営に関しての役割分担を行う。	
到達度目標	
1. 「秋のコンサート」開催において自己の役割を全うし、成功させようとする意欲を持つ。 2. 協調性を持って他者とコミュニケーションを図り、積極的に行動する。 3. 企画立案を通し、マネージメント能力を身に付ける。	
使用教材	
前年度「秋のコンサート」プログラムの配付	
授業展開	
1. 「秋のコンサート」の企画・立案、運営の役割分担を行う。 ①本年度の開催日を周知する。 ②コンサートの内容について討議する。	

③どのような役割が必要かを話し合い、部門を組織化し、各学生の所属を明確にする。   ④9月以降本番までのタイムテーブルを作成する。   2. 「秋のコンサート」での演奏曲目を調整し、決定する。   3. 9～10月の授業内で、必要に応じて「秋のコンサート」運営についての検討時間を設ける旨を告知する。

時間配分・注意事項   1. 65分 ・以下の懸案事項を審議する。   ①(参考)平成21年10月2日(土)10:00～・12:30～ ユリホール   ②公開演奏会としてのアピール・演出方法等。   ③広報(チラシ作成・学内外宣伝)、プログラム(プログラミング、プログラム作成) 当日スタッフ(監督、場内アナウンス、照明、音響、舞台袖、受付、客席係、譜めくり等)   ④部門ごとに授業以外でも個別に連絡を取り作業を進める。   2. 10分 ・学生が主体となり、各ペアの演奏曲目を検討し、なるべく重複しないよう調整し決定する。   3. 5分 ・後期の1～4回の授業では各回15分程度をコンサート企画検討に当てる。

後期 第1. 2. 3. 4回	
シラバス	「秋のコンサート」で演奏する連弾曲についての研究
授業の目的	
1. 「秋のコンサート」で演奏する連弾曲について、詳しく研究する。 2. 授業での演奏を公開演奏に先立ってリハーサルとして位置づける。 3. 他のペアの演奏に対し感想や意見を述べる。	
到達度目標	
1. 主科担当教員のレッスンを踏まえて、解釈の多様性について認識する。 2. 人前で演奏することに慣れ、集中力を高める。 3. 他者の演奏を聴き、演奏の多様性を理解する。 4. 様々な曲を聴き、ピアノ連弾曲レパートリーの知識を広げる。	
使用教材	
各組の演奏曲目。(個別配付は行わない)	
授業展開	
1. 連弾曲を1組ずつ演奏発表し、教員がアドバイスを与える。 2. 必要に応じて「秋のコンサート」の運営状況について検討する。 3. 7・8・9回授業『音楽を語る』③「興味のある事柄について」レポート内容の説明。	
時間配分・注意事項	
1. 60分 ・一組最低一回は演奏を行う、直前の授業では通しリハーサルを行う。 2. 15分 ・コンサート企画について下記の各部門ごとに進捗状況の報告や検討事項の審議を行う。 広報(チラシ作成・学内外宣伝)、プログラム(プログラミング、プログラム、アンケート作成) 当日スタッフ(監督、場内アナウンス、照明、音響、舞台袖、受付、客席係、譜めくり等) 3. 5分 ・各自の「興味のある事柄」については、音楽に限らずどのようなジャンルでもよい。 例えば 趣味(旅行・料理・読書・映画鑑賞等)ファッション・政治・ボランティア等 ・何故興味があるか好きかについて述べ、他者にその良さを伝えるためにプレゼンテーションする。	

後期 第5回	
シラバス	「秋のコンサート」出演
授業の目的	
1. 「秋のコンサート」に出演する。 2. 「秋のコンサート」スタッフとして活動する。 3. 他のペアおよび2年生の演奏を鑑賞する。	
到達度目標	

1. 公開演奏という緊張感の中で、日ごろの練習成果を出来る限り発揮する。   2. 演奏会を成功に導くために必要な裏方としての能力を身につける。   3. 聴衆の反応にも目を向け、演奏会がもたらす効用・意義について考察する。
4. 2年生の2台ピアノの演奏を鑑賞し、来年に向けてレパトリーの知識を広げる。
使用教材 なし
授業展開   1. 当日打ち合わせ   2. 演奏およびスタッフ活動   3. 2年生の演奏の鑑賞およびスタッフ活動   4. 終演後のまとめ会
時間配分・注意事項   1. 30分 ・会場30分前に集合。   2. 100分 ・演奏および客席での鑑賞 ・当日スタッフ(監督、場内アナウンス、照明、音響、舞台袖、受付、客席扉係、譜めくり等)   3. 100分 ・2年生の演奏の鑑賞および当日スタッフ   4. 10分 ・次回の授業で『音楽を語る』②「秋のコンサートに出演して」を提出する旨周知する。 ・その際①演奏について②スタッフ活動について③演奏会聴衆としての3点について述べる。

後期 第6回	
シラバス	『音楽を語る』②「秋のコンサートに出演して」
授業の目的 1. 事前に作成したレポート「秋のコンサートに出演して」を発表する。 2. 「秋のコンサート」全般に関してディスカッションを行い総括する。	
到達度目標 1. 演奏・スタッフ・聴衆の立場から自己評価を行い、文章にまとめる。 2. 自分の感想を発表し、なおかつ他者の意見にも耳を傾けて意見交換を行う。 3. 本年度の反省を踏まえて2年次での演奏会に向けての意欲を高揚させる。	
使用教材 『音楽を語る』②「秋のコンサートに出演して」	
授業展開 1. 事前に作成したレポート「秋のコンサートに出演して」を一人ずつ全員が発表する。 2. レポート発表の後に全員で自由に感想を述べ合い意見をまとめる。 3. 7・8・9回授業『音楽を語る』③「興味のある事柄について」の発表日の決定。	
時間配分・注意事項 1. 60分 ・一人約3分。 ・演奏・スタッフ・鑑賞の立場からの感想を述べさせる。 2. 15分 ・全員での反省会。来年度への検討事項については記録に残しておく。 3. 5分 ・各自が何回目にレポート発表するかを決定する。	

後期 第7. 8. 9回	
シラバス	『音楽を語る』③「興味のある事柄について」
授業の目的 1. 「興味のある事柄」について、その理由と自分の考えをまとめる。 2. 他者に自分の考えを理解してもらい、共感を得られるように発表する。 3. 他者の考えを知り、質問や感想を述べる。	
到達度目標 1. 読んでわかりやすい構成や説明方法を意識してレポートを作成する。 2. 人前で話すことに慣れ、人に興味を抱かせられるような説得力のある話術を身につける。 3. 自分と等しいあるいは異なる様々な感性知り、理解しようとする姿勢を持つ。	
使用教材 なし	

授業展開   - レポート発表   ①一人ずつ作成したレポートを基にプレゼンテーションを行う。   ②全員で意見交換を行う。   - 第10・11・12・13回授業「バロックピアノ作品研究」についての説明を行う。
時間配分・注意事項   70分。・各回7名(総数の3分の1)ずつ発表させる。   ・他者の共感を得られるように分かりやすく説得力のある話し方をさせる。   ・状況に応じて、臨機応変に内容を修正しながら話せるように指導する。   ・学生の発表に対して全員でディスカッションを行う。   10分。・第10・11・12・13回授業「バロック作品研究」について発表方法の説明を行う。   ・J. S. バッハ「2声インヴェンションー第1番」エディション研究。   ・図書館所有の多種類の版の中から各自に指定した楽譜を用いて全員が演奏する。   ・レポートは以下の課題を配分する。「バロック時代について」「インヴェンションについて」「J. S. バッハの生涯について」「J. S. バッハの作品について」   ・全員を4分割し、発表日を決定し準備を促す。

後期 第10・11・12・13回	
シラバス	バロック作品研究発表
授業の目的 「バロック時代」「J. S. バッハ」「インヴェンション」について研究し、発表する。 「インヴェンション第1番」の多様な版による演奏と鑑賞を通して比較検討を行う。 - 他者の演奏や楽譜による差異に対し意見や感想を述べる。	
到達度目標 - バロック時代の背景・演奏様式について知識を高める。 J. S. バッハの特質について理解を深める。 - エディションによる違いと演奏の多様性について認識を深める。 - 作品研究と演奏発表を通して自己の解釈を表現することを学ぶ。	
使用教材 ・各自演奏に際し指定された楽譜(コピー可能)を持参する。 ・図書館所有の多種類の版すべてをコピーして資料として全員に配付する。	

授業展開   4回に分けて一人ずつのレポート発表を行う。   ・1回目「バロック時代」・2回目「インヴェンション」・3回目「バッハの生涯」・4回目「バッハの作品」   4回に分けて一人ずつ「インヴェンション第1番」の演奏発表を行う。   ①エディションによる解釈の違いに目を向けて教員がその都度アドバイスをを行う。   ②全員でエディションの差についての意見交換を行う。
時間配分・注意事項   20分。・各回5名(総数の4分の1)ずつ発表させる。   ・1人5分程度にまとめ、要領よく発表する。   ・全員発表し終えたら質疑応答を行う。   60分。インヴェンション第1番の演奏に対して、公開で一人ずつアドバイスをする。   ・使用エディションを明確にし、全員楽譜を参照しながら演奏を聴く。   ・アーティキュレーション、フレージング、ダイナミクス、フィンガリング等を比較検討する。   ・演奏者を含め、学生全員で解釈の相違について意見交換を行う。

後期 第14・15回	
シラバス	演奏表現について—CD・DVDによる比較研究
授業の目的 「インヴェンション第1番」及びJ. S. バッハの作品の演奏をCD・DVDにより鑑賞して比較検討を行う。(第14回) - ロマン派のピアノ作品の演奏をCD・DVDにより鑑賞して比較検討を行う。(第15回)	

到達度目標
1. 同一曲について複数の演奏を聴き比べることにより演奏解釈の多様性について知識を深める。   2. 名演奏を聴覚及び視覚を通して鑑賞することにより、自己の演奏スタイルを認識し、改善させる。   3. 各自が感想を述べあうことにより、音楽的志向の多様性について認識を深める。
使用教材
1. ・鑑賞作品の楽譜を全員に持参させる。 ・「インヴェンション第1番」の複数のCD・DVD ・「平均律クラヴィア曲集 第1巻第2番」の複数のCD・DVD   2. 「ショパン：バラード第1番」の複数のCD・DVD
授業展開
1. 「インヴェンション第1番」「平均律クラヴィア曲集 第1巻第2番」の複数のCD・DVD鑑賞 ・楽譜を見ながら演奏を鑑賞する。 ・各自好みの演奏を発表させ、意見交換を行う。   2. 「ショパン：バラード第1番」の複数のCD・DVD ・各自好みの演奏を発表させ、意見交換を行う。
時間配分・注意事項
1. ① 40分。「インヴェンション第1番」の鑑賞 ・鑑賞後、全員に感想を述べさせる。その理由について自信を持って発表させる。 ・学生全員で解釈の相違について意見交換を行う。 ② 40分。「平均律クラヴィア曲集 第1巻第2番」の鑑賞 ・鑑賞後、全員に感想を述べさせる。その理由について自信を持って発表させる。 ・学生全員で解釈の相違について意見交換を行う。   2. ① 60分。「ショパン：バラード第1番」の鑑賞 ・鑑賞後、全員に感想を述べさせる。その理由について自信を持って発表させる。 ・学生全員で解釈の相違について意見交換を行う。 ② 20分。2年次の「ピアノ演奏研究②」の授業内容についての事前説明を行う。 ・第1回授業の『音楽を語る④・作曲家について』のレポート執筆を春期休暇中の課題とする。 ・対象とする作曲家をリストアップし、各自に割り当てる。

※資料 短大 ピアノ演奏研究① 『音楽を語る』『作品研究』 レポート執筆要領

●『音楽を語る』①②③ 各テーマについて自分の考えをまとめる。   ●『作品研究』 ・「古典派のピアノ作品研究発表」 個々に演奏した経験のある任意の作品について、創作の背景、エピソードについてまとめる。 ・「バロック作品研究」 「バロック時代について」「インヴェンションについて」「J. S. バッハの生涯について」「J. S. バッハの作品について」 上記のうち事前に授業内で指定された一つのテーマについてまとめる。   ●タイトル例 『音楽を語る』①「自分が音楽を志した理由」 学籍番号 氏名   ●提出期限 ・レポートのプレゼンテーションを行う当日までに紙コピーを担当教員に1部提出する。   ●注意事項 ・A4用紙 1枚以上 (フォント 10.5 40×40) ・出来る限りパソコンで作成することが望ましい。 ・各レポートはパソコンデータに蓄積し、ファイルとして保存しておく。

本年度は授業目標を達成するための具体的内容について詳細に検討を重ね、上記の新カリキュラムとして一応の完成を見た。来年度はこれを実際に運用しながら検証を進めていくことにしたい。